

建機

被災地復興に全力



日立建機は茨城県内に 県土浦市)と、建機の基 幹部品となる油圧機器を 生産する霞ヶ浦工場(同 市)の製造拠点を として懸命の復旧作業に取 がかかった。被災したの 大型鉱山機械を製造する は油圧シヨベルの主力工 常陸那珂臨港工場(同 市)の操業が止まっ た。復旧作業は大きな余 震のたびに避難をする、 といった状況の中で続け られたという。

最優先で車両供給

東日本大震災で北関東に生産拠点を持つ日立建機とコマツが被災した。両社は協力会社と一丸となつて早期復旧を目指す。震災から1カ月ほどで通常の生産体制に回復した。津波被害によるがれきの撤去には油圧シヨベルなど大量の重機械が必要になり、各社とも車両と人材を重点的に配置し、復旧復興を支えている。一方、震災で打撃を受けたにもかかわらず、世界市場での地位は依然として高いポジションに立つ。

無人化技術 原発に投入

ため中大型油圧シヨベルの大阪工場(大阪府枚方市)、中小型油圧シヨベルの粟津工場(石川県小松市)の生産ラインも停止した。深刻な影響が出る中で、コマツは各工場の設備保全員を招集。被災した工場に派遣した。同社の協力企業組織「みどり」に所属していない企業も合わせ、被災地にある計259社の状況確認に素早く着手。派遣先は茨城や栃木、福島県に限らず、岩手県など広範な地域に及んだ。この迅速な対応が功を奏し、3月25日には被災した全工場で生産を再開。早期再開によってコマツの野路国夫社長は「初動と優先順位の付け方を考えたからだ」と振り返る。



日立建機によると、12年3月期の油圧シヨベルの国内需要予測は42.8%増の2万台、この予想通り現場では新品の油圧シヨベルなどが多く見られ、建機の国内市場は大きく回復している。日立建機は1号機の修理工事で、各社の重機が大活躍する

福島第一原発でがれき撤去をする遠隔操作重機(東京電力提供) ン、キャタピラー、ジャバ ンも放射線防護措置を施 した油圧シヨベルを納入 している。 建機メーカーの海外売 上高比率は約8割と高 くに、国内製造業の中で 屈指だ。特に油圧シヨベル は故障率が少ないことや 正確な操作性で高い評価 を受けており、日本メー カーは世界で約4割の市 場シェアを握る。

信頼性、海外市場で評価

造船重機メーカー各社が東日本大震災の復旧・復興に全力を挙げている。被災したインフラ設備の早期復旧に向けて技術支援を打ち出しているほか、東京電力福島第一原子力発電所の事故で発生した汚染水や汚染がれきを処理する機器の開発を積極化。政府や地元自治体などへの提案を推し進める。また円高の進行や欧州経済の停滞など外部環境が不透明な中、拡大が続く新興国市場へのシフトを鮮明にし、その技術力を世界に発信する。

三菱重工は放射線を遮断するキャビンを搭載した大型特殊フォークリフトを小型化したシステムになり、低濃度汚染水をポンプでくみ上げ吸着剤が入った容器の中へ放射性セシウムを除去する。プールの水や農業用水など多様な場所に設置でき、中央官庁や地元自治体に

不安など不透明感が強い。だが新興国市場は拡大の余地がある。新興国の成長を取り込むことが造船重機業界にとっても大命題になっている。川崎重工は中国に建設共同企業体に2台納入した。特殊車両や原子

技術力を世界に発信



三菱重工の放射線を遮断するキャビンを搭載した大型特殊フォークリフト

原発事故収束を支援

力技術を生かして製品化したもので、放射線汚染地域に入る操縦者の安全を確保しつつ効率よく作業を進め、大震災は世界にエネルギー政策の転換を突きつけた。原子力が停滞する中で、代替の発電設備としてガスタービンの需要が増大。三菱重工では熱効率60%以上、出力46万キロワットと世界最高水準の効率と出力を誇るJ型ガスタービンの引き合いが活発化している。EHIは米発電所向けに4年ぶりとなる石炭焚き火力発電ボイラを受注した。世界経済は欧州の経済



川崎重工が中国で完成させた建機用油圧機器の新工場

工場を完成させた。またインドで建設機械用油圧ポンプの製造・販売、サ

新興国シフト鮮明に 非価格要素で存在感

崎重工も造船事業で中国企業と合併事業を展開し、大型船舶などを中国で製造する。また、現地市場に対応するため海外調達の動きも加速。EHIはシンガポール拠点を増強し、海外連結子会社の売上高を1.5倍に伸

ばず中期経営目標を掲げ速している。三菱重工は中国やインドの現地企業と組み、原動機のリソースを付与するなどして、川崎重工は中国に建設共同企業体に2台納入した。特殊車両や原子

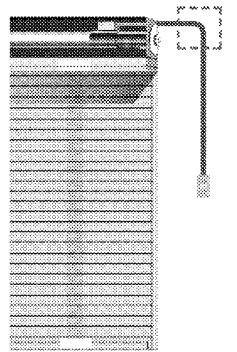
つくろう!日本

BX 文化シャッター

Life in & Lifelong Partnership 文化シャッターはお客様に安心・安全を提供する「快適環境のソリューショングループ」を目指します。

あえて「電動」を使わないという、「進化」。

火災時等での降下中のシャッターに挟まれる事故を防止するため、シャッターの危害防止装置の標準装備が義務づけられています。 これまでは蓄電池を内蔵した最新のテクノロジーによる危害防止装置が主流でした。 しかし、文化シャッターは、機械式、あえて電動を使わずに作動する危害防止装置「エコセーフ」を業界に先駆けて開発しました。 時代はエコロジーとともに、節電に向かっています。 いかに電気を大切に使うかは私たち日本人の重要なテーマです。 「エコセーフ」とは、バッテリー不要、蓄電池交換不要、付帯工事不要により省エネ・節電を実現しています。 あえて電動を使わない。それも時代の要請に応えた一つの「進化」なのです。



コストセーフを実現! 電源供給 蓄電池交換 配線・配管工事 不要

機械式危害防止装置

エコセーフ

手動式・防火/防煙シャッター用(屋内専用)

「エコオフィス」「エコ工場」を積極にご提案している文化シャッターでは、従来の蓄電池内蔵タイプとは異なる、環境配慮型のバッテリーレス危害防止装置を開発しました。 バッテリーレスであることはもちろん工事コストも低減することで省エネ・節電に貢献しながら、もしもの時の安全をご提供します。

電源供給不要

蓄電池を内蔵するタイプと異なり、ワイヤーリールによって機械的に作動するシンプルな機構です。

蓄電池の交換不要

蓄電池を定期交換するわずらわしさがなく、ランニングコストの低減にもつながります。

外部からの信号・電力不要

防災信号以外の外部からの信号・電力を必要としないため、本装置に係わる配線・配管等の付帯工事はありません。

文化シャッター株式会社

〒113-8535 東京都文京区西片1丁目17-3 TEL.03-5844-7111 http://www.bunka-s.co.jp/

